

Q1.市によって水道水の味が違うと聞いたことがあります、どのように違うのか？なぜ違うのか？が知りたいです。

A1.水道水のもとになる原水の成分(ミネラルが含まれている量等)に大きく由来し、水道水を作る処理工程の違いも影響します。

Q2.家庭内で水道水を保管する際に、気を付けたほうがいい点があれば教えてください。また、非常時の備えとして、一人一日どのくらい準備したらいいのでしょうか？

A2.清潔な容器に水道水を満タンに入れ、直射日光を避ければ、塩素による消毒効果が持続する約3日程度は保存が可能です。ただ、直接口をつけて飲むなどすると、雑菌が繁殖しやすいので注意してください。

災害時には1人1日3Lの水が必要だと言われています。ちなみに、標準的なトイレでは1回流すのに約8Lの水が、浴槽をためるには約20Lの水が必要です。

Q3.水道料金は安く、下水道使用料は高いと聞きます。実際、浄水場見学をしてみて、たくさん手間をかけて費用がかかっていると思ったのに、どうして安いのでしょうか？

A3.下水道使用料についてはよく分かりませんが、光市の水道料金が安い理由は大きく2つあります。1つ目は、光市の特徴である「伏流水」にあります。光市は、浄水場で伏流水を取水しています。ダムを作ったり、遠くから原水を運ぶことを考えれば、取水コストは低くなっています。また、伏流水は水質がよいため、薬品注入量が少なく済むなど、水を作るコストも抑えられているからです。2つ目は、全体の水道料金の40パーセントを2大企業が占めており、市民全体での使用量とほぼ同じだということです。市内全域の水道管を各ご家庭に水道水をお届けするのに、水道管等の設備費などたくさんの費用がかかるのに

対して、2大企業への送水は、効率的に整備することで、かかる費用を抑えることができるからです。

Q4.多発する自然災害で、水道への影響はどのようなものなのでしょうか？

A4.災害時に、市民の皆さんへ直接影響が生じるのは『断水』です。

地震等による水道管破断、豪雨等に起因する濁水、停電による送水停止等が原因で断水が発生する恐れがあります。光市水道局では「危機管理マニュアル」を作成し、想定される災害に迅速に対応できるような体制を構築しています。

光市では、85年の水道事業の歴史の中で、実は1度しか全域断水になったことがありません。また、記憶に新しい平成30年豪雨災害においても、皆さんのもとに安全で安心な水を送り続けることができました。

これからも、災害発生時にも断水にならないような、災害に強い施設づくりを進めてまいります。